



環政起第1365号-1

平成28年 7月 1日

米子水鳥公園及び米子水鳥公園ネイチャーセンター

公益財団法人 中海水鳥国際交流基金財団

理事長 角 博 明 様

米子市長 野 坂 康 夫



平成27年度「米子水鳥公園及び米子水鳥公園ネイチャーセンター」  
指定管理者業務評価書

施設名	米子水鳥公園及び米子水鳥公園ネイチャーセンター
施設所管課	市民人権部環境政策課
指定管理者名	公益財団法人 中海水鳥国際交流基金財団
指定期間	平成27年4月1日 ～ 平成28年3月31日 (5年目)

<p><b>【モニタリング終了後の総評】</b>・事業計画書、収支予算書と実際の業務内容を比較して記入する。</p> <p>・毎月の「運営状況チェック表（自己評価）」、半年毎の「モニタリング評価書」で確認した内容等を記入する。</p>
<p><b>【施設所管課】</b></p> <p>事業は計画どおりに実施され、収支も適正な額であった。</p> <p>開園20周年を記念して、「米子水鳥公園の野鳥図鑑」を発刊するなど、これまで蓄積された野生鳥類等の高い専門的知識を十分に発揮し、環境学習の拠点施設として利用者満足度の高い運営が行われている。</p> <p><b>【第三者評価】</b></p> <p>館内の環境管理や園内の環境整備も適切に行われている。</p> <p>水鳥公園の最大の魅力である来館者への野鳥解説も、来館者の年齢や目的に応じて適正な解説を行っており、来館者の評価も高い。</p>

<p><b>【今後の業務改善方策等の特記事項】</b></p> <p><b>【施設所管課】</b></p> <p>・入館者増加に向けた新たな取組みを市と連携して実施する。</p> <p><b>【第三者評価】</b></p> <p>・来館者数を増加させるには、市と連携しマスコミ等でのPR強化が必要。</p>
---

(別紙2)

## 平成 27 年度下期「米子水鳥公園・米子水鳥公園ネイチャーセンター」モニタリング評価表

〔平成 28 年 7 月〕

施設名	米子水鳥公園・米子水鳥公園ネイチャーセンター	
施設所管課	市民人権部環境政策課	
指定管理者名	団体名	公益財団法人中海水鳥国際交流基金財団
	所在地	米子市彦名新田 665
指定期間	平成 23 年 4 月 1 日 ～ 平成 28 年 3 月 31 日	
選定方法	非公募	
施設の設置目的	市民の自然環境に関する意識の向上を図るため。	
主な実施事業	設置目的を達成するため、下記の事業をおこなう。 (1)野生鳥類等の観察並びに野生鳥類等及び自然環境に関する学習活動のための利用に供すること。 (2)野生鳥類等及び自然環境に関する資料の収集及び展示を行うこと。 (3)野生鳥類等の生態に係る調査及び研究を行うこと。 (4)前 3 号に掲げるもののほか、市民の自然環境に関する意識の向上を図るために必要な事業。	

評価項目	評価基準	評価	特記事項
<b>I 履行の確認 (55点)</b>			
1 施設全般の管理運営に関する業務			
(1)管理体制	施設の管理体制が明確になっており、基準に基づいた適切な人員配置がされているか 安全対策、危機管理体制などが十分に講じられているか	B	立入調査により確認：限られた人員の中で、適正な配置を行っている
(2)職員研修	職員の業務に必要な資質・能力の向上を図るための研修・教育が適切に行われたか	B	資料等で確認：資質向上に努めている
(3)利用促進業務	利用者拡大のための利用促進業務が適切に行われたか	A	資料等で確認：ホームページや公園だより、マスコミへの情報発信を積極的に行っている
2 利用者に関する業務			
(1)利用状況	利用者数・稼働率等は適切な水準であるか <b>補足資料※1</b>	B	資料等で確認：入館者総数はほぼ横ばいとなったが、学校、保育園等の環境学習は増
(2)利用者の要望把握等	利用者の要望の把握及びその実現策は適切に行われているか	A	資料等で確認：利用者からの意見に対しきめ細かな対応を行っている
3 保守点検並びに清掃等の業務			
(1)保守点検業務	基準に基づき、保守点検が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か	B	資料等で確認
(2)清掃・維持業務	基準に基づき、清掃業務・維持管理が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か	A	資料等で確認：基準で定められた業務以外に、自主的に清掃・維持業務を実施している
(3)保安・警備業務	基準に基づき、保安・警備業務が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か	B	資料等で確認
(4)修繕業務	基準に基づき、修繕業務が適切に行われたか	A	立入調査・資料等で確認：基準

	第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か		で定められた業務以外に、建物の営繕を実施している
4 情報公開・個人情報に係る措置	情報公開・個人情報保護に係る措置は適切に行われたか	B	資料等で確認
5 管理目標	施設の現状を正しく認識し、今後の在り方についての提案は具体化されているか	A	資料等で確認：現状に即した対策を行っている。

## II サービスの質の評価（20点）

1 利用者満足度	利用者へのサービスの質を維持・向上させるための提案は具体化されているか 利用者アンケート等を実施し、その結果は妥当であるか	A	資料等で確認：アンケートでは、概ね良い評価を得た。
2 維持管理業務	日常清掃業務や衛生管理、備品などの設備の維持管理は適正に行われ、良好な状態で施設の利用が行われているか	B	立入調査により確認
3 運営業務	事業運営について、サービス水準の向上のための創意工夫が見られるか。 利用許可などの利用者への接客・対応は適切であるか	A	資料等により確認：季節ごとに各種イベント開催や展示等を実施。丁寧な解説業務等への評価も高い。
4 施設の効用	施設の効用を最大限に発揮し、設置目的の達成に資することができる管理運営内容であったか	A	資料等で確認：施設の特徴を活かし、野鳥等に関する展示、環境学習、調査研究等が実施されている。

## III サービスの安定性の評価（15点）

1 事業収支	指定管理業務の事業収支は妥当であるか <b>補足資料※2</b>	B	資料等で確認
2 経営状況	指定管理業務の経営状況分析指標の結果は妥当であるか <b>補足資料※3</b>	B	資料等で確認
3 団体等の経営状況（年度ごと）	団体の経営状況分析指標の結果は妥当であるか <b>補足資料※4</b>	B	資料等で確認

<p>【総評（所管課評価）】</p> <p>設置目的を達成するため事業計画どおり事業が実施され、利用者からも良い評価を得ている。</p> <p>上半期の屋根改修工事による入館者減を10月の開園20周年記念イベントの実施で補い、入館者数は前年と同数（2名減）となった。なお、保育園・学校等の学習利用は引き続き増加している。</p> <p>水鳥公園の指定管理業務として、自然環境の保全とその特性を生かした施設運営が行われており良好な運営だと評価する。</p>	<p>合計点 (75)点/(90)点 ×100=(83)</p> <p>平均点 (3.9)点</p>
---	--

※施設の性格や設置目的により、評価項目は追加、変更できる。

※評価区分 A（優良）＝協定書等の基準を遵守し、その水準よりも優れた管理内容である。（5点）

B（良好）＝協定書等の基準を遵守し、その水準に概ね沿った管理内容である。（3点）

C（課題含）＝協定書等の基準を遵守しているが、管理内容の一部に課題がある。（1点）

D（要改善）＝協定書等の基準を遵守しておらず、改善の必要な管理内容である。（0点）

※特記事項欄は評価を行った確認方法（例：立入調査、台帳確認、資料等確認）と当該評価を行った理由を記載する。

※総評欄は、事業計画書等との整合性を検証し、評価、業務の改善方策等を記入する。

【補足資料】

※1 利用状況

項目	本年度〔平成27年4～3月〕 A	前年度〔平成26年4～3月〕 B	対比 A-B、A/B	対比が±20%を超える場合は増減理由を記載
開館日数	311	313	-2、99.4 (%)	
施設利用者数	19,829	19,831	-2、100.0 (%)	
施設稼働率	85.2	85.8	-0.5、99.4 (%)	
事業開催数	68	33	35、206 (%)	20周年記念事業など

※2 事業収支

(1) 収入

項目	本年度〔平成27年4～3月〕 A	前年度〔平成26年4～3月〕 B	対比 A-B、A/B	対比が±20%を超える場合は増減理由を記載
利用料収入	1,994,080	1,892,690	101,390、105.4 (%)	
指定管理料	34,377,280	34,377,280	0、100.0 (%)	
自主事業収入			、(%)	
その他	170,320	153,610	16,710、110.9 (%)	
合計		36,423,580	118,100、100.3 (%)	

(2) 支出

項目	本年度〔平成27年4～3月〕 A	前年度〔平成26年4～3月〕 B	対比 A-B、A/B	対比が±20%を超える場合は増減理由を記載
人件費	22,339,928	22,250,672	89,256、100.4 (%)	
消耗品費	1,789,162	1,219,000	570,162、146.8 (%)	科目わけの変更
光熱水費	2,006,832	2,154,778	-147,946、93.1 (%)	
共済費	2,994,453	3,958,778	-964,325、75.6 (%)	退職者の有無
委託料	4,588,042	4,244,196	343,846、108.1 (%)	
租税公課	1,416,000	1,252,445	163,555、113.1 (%)	
修繕費	387,800	468,000	-80,200、82.9 (%)	
その他	853,451	874,548	-21,097、97.6 (%)	
合計	36,375,668	36,422,417	-46,749、99.9 (%)	

※3 経営状況分析指標

項目	本年度〔平成27年4～3月〕 A	前年度〔平成26年4～3月〕 B	対比 A-B、A/B	備考
① 事業収支	166,012	1,163	164,849、14274.5 (%)	計算式を確定
②利用料金比率	5.5%	5.2%	0.2%、104.9 (%)	
③人件費比率	61.4%	61.1%	0.3、100.5 (%)	
④外部委託費比率	12.6%	11.7%	0.9、107.8 (%)	
⑤利用者当たり管理コスト	1,834	1,837	-2.5、99.9 (%)	
⑥利用者当たり自治体負担コスト	1,734	1,734	-0.3、100.0 (%)	

①事業収支：(収入－支出)

事業全体が黒字で施設の管理運営ができていようかどうか確認する。赤字の場合は管理継続性の面での課題を解決し、黒字化のための方策を検討する。

②利用料金比率：(利用料金収入/収入)

収入に占める利用料金の割合。指定管理者の収入源がどこにあり、それが安定したものであるかを確認する。

③人件費比率：(人件費/支出)

支出に占める人件費の割合。支出の中で人件費が減らされすぎているか、逆に費用がかかりすぎているかを確認する。

④外部委託比率：(外部委託費合計/支出)

支出に占める外部委託費の割合。外部委託に過度にシフトしていないかを確認する。

⑤利用者当たり管理コスト：(支出/延べ利用者数)

利用者1人当たりにかかる費用。前年度や事業計画との比較、類似施設との比較により施設の効率性を確認する。

⑥利用者当たり自治体負担コスト：(指定管理料/延べ利用者数)

利用者1人当たりにかかる自治体の費用。前年度や事業計画との比較、類似施設との比較により施設の効率性を確認する。

※4 団体等の経営状況（年度毎に実施）

項目	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	備考
①自己資本比率	99.2	98.6	99.3	99.4	99.4	
②流動比率	468.2	323.8	742.7	727.0	698.1	
③固定長期適合率	97.2	96.8	96.9	96.4	96.1	
④総資産経常利益率	0.4	0.3	0.0	0.3	0.0	
評価	(以上の指標を参考に評価する。)各数値を見る限り、経営状況に問題なし。					

※貸借対照表と損益計算書を基に計算。太枠内に今年度の数値を記載し、左側に過去4年分を記載。

①自己資本比率

総資産（資産合計）に占める自己資本（純資産合計）の割合を示した指標。どれだけ借金に頼らず経営をしているかを示す。比率が高いほど借金（負債合計）に頼る割合が低く、経営が安定していることを示す。一般的には、70%以上なら理想企業、40%以上なら倒産しにくいとされている。

$$\text{自己資本比率 (\%)} = \text{自己資本} \div \text{総資産} \times 100 \quad \text{【例】 } 800 \div 2,000 \times 100 = 40.0\%$$

$$\text{【公益法人会計の場合：正味財産計} \div \text{資産計} \times 100 \text{】}$$

②流動比率

団体の短期的な支払い能力を示す指標。1年以内に現金化できる試算を「流動資産」、1年以内に支払いを要する負債を「流動負債」と言い、「すぐに準備できるお金」と「すぐに返さないといけないお金」のバランスを比較する。流動資産（すぐに準備できるお金）の方が多く、支払い能力が高いことを示す。100%以上であれば問題ない。100%未満であれば資金繰りが苦しいとされる。

$$\text{流動比率 (\%)} = \text{流動資産} \div \text{流動負債} \times 100 \quad \text{【例】 } 1,100 \div 700 \times 100 = 157.1\%$$

③固定長期適合率

固定資産をどの程度、自己資本（純資産合計）と固定負債で賄っているかを示す指標。土地や建物など、この先1年以上換金できない、または換金しない固定資産を返済義務のない自前の資金である自己資本（純資産合計）と長期で調達したお金（固定負債）でどれだけ賄えるかを見る。100%未満であれば問題ないが、100%以上の場合は固定資産の維持調達について流動負債にも依存していることを示すことから、資金繰りが苦しいと考えられるとされる。

$$\text{固定長期適合率 (\%)} = \text{固定資産} \div (\text{固定負債} + \text{自己資本}) \times 100 \quad \text{【例】 } 900 \div (500 + 800) \times 100 = 69.2\%$$

$$\text{【公益法人会計の場合：固定資産} \div (\text{固定負債} + \text{正味財産計}) \times 100 \text{】}$$

④総資産経常利益率

団体の総合的な収益力を示す指標。団体の総資産（資産合計）に対して、どれだけ経常利益を稼ぎ出しているかを示す。比率

が高いほど資本を効率的に運用し、収益を上げている。

$$\text{総資本経常利益率} = \text{経常利益} \div \text{総資産} \times 100 \quad \text{【例】 } 200 \div 2,000 \times 100 = 10.0\%$$

$$\text{【公益法人会計の場合：正味財産増加額} \div \text{総資本} \times 100 \text{】}$$

■貸借対照表（例）

【資産の部】		【負債の部】	
流動資産		流動負債	
現金及び預金	400	買掛金	400
受取手形	500	短期借入金	300
有価証券	200	流動負債合計	700
流動資産合計	1,100	固定負債	
固定資産		社債	300
建物及び構築物	200	退職給付引当金	200
土地	500	固定負債合計	500
投資有価証券	200	負債合計 1,200	
固定資産合計	900	【純資産の部】	
資産合計 2,000		資本金	600
		利益剰余金	200
		純資産合計	800
		負債純資産合計	2,000

■損益計算書（例）

売上高	3,000
売上原価	1,200
売上総利益	1,800
販売費及び一般管理費	1,200
広告	700
人件費	500
営業利益	600
営業外収益	200
受取利息	200
その他	0
営業外費用	600
支払利息	200
社債利息	0
経常利益	200
特別利益	100
外国為替	100
特別損失	50
固定資産売却損	50
税引前当期純利益	250
法人税・住民税等	50
当期純利益	200

5 利用者からの苦情の内容とそれに対する市・指定管理者の対応や市から指定管理者への指導状況

○病気怪我の鳥の対応について→担当部局である鳥取県生活安全課と協議し、市民から傷病・死亡鳥について連絡があった場合は、スムーズに連絡ができるようにFAX連絡票を作成しました。
○休館日の掲示について→正門にて休館日であることがわかりにくいと要望があったので、休館日であることがわかりやすいように、休館日には「休館日」と掲示する看板を設置しました。
○ホームページの掲載について→ハクチョウについて、季節によりハクチョウの飛来数が少ないことに対して、記録の明示を求められたので、ハクチョウの飛来数のグラフをホームページに掲載しました。

6 利用者アンケートの結果

○丁寧にわかりやすく観察方法や鳥について説明してくれてよかった。説明が楽しかった。（10名）
○観察ホールから眺めるハクチョウや風景と遠くに見える初日の出がきれいで楽しかった。（7名）
○クイズラリーが楽しかった。（5名）
○鳥の名前や特徴がよくわかるようにクイズや資料がたくさんあり、鳥のことがよくわかった。（3名）
○子どもが本や木製のパズルを楽しんでいた。（3名）
○季節ごとにいろいろな種類の鳥を見ることができ楽しい。（3名）
○近場で鳥を観察できて、これからも都度来たいです。（2名）